

令和元年度 ベッドサイド実践講習会

令和元年度ベッドサイド実践講習会が9月28日(土)、29日(日)の一泊二日で長崎につしようにんにて開催されました。今年は5名の参加となりました。

初日の午前はず、日臨技宮島喜文会長によるビデオ講演が行われ、臨床検査技師が他職種業務を知る意義のお話がありました。次いで、佐世保中央病院の安東摩利子技師から、午後から始まる各先生方の講演に先立ちお話しして頂きました。午後からは、ニプロ株式会社の南昂志先生からベッドサイドの機器管理として点滴やシンリジポンプの管理について講義と実際に実演、実習がありました。その後、続けて光風台病院の中村悦子先生による検体採取について講演、実習がありました。模型を使用し、参加された方々も実際に検体採取の実技を行い、先生からも丁寧な指導を受けていました。

講義の後は有志の方々と一緒に新人研修会に参加された若手技師たちと懇親会を行いました。新人技師の方たちも先輩技師との交流の機会を得られて喜んでいました。

二日目の午前中では、長崎北病院の勝野久美子先生による患者や家族とのコミュニケーションと患者移送技術についての講演と実技が行われました。看護職からの視点で、わかりやすく、参加された方も聞き入っていました。実技においては、納得して出来るようになるまで時間を割いて頂き、真剣に、また和気あいあいとした様子で実習されていました。最後に、長崎大学病院の原澤仁美先生による薬理についての講演があり、実際の症例を交えてわかりやすくお話されました。

参加人数が少なかったのは残念でしたが、その分、実技に十分時間がかけれたこともあり、充実した講習会となりました。

今回参加された方々、講師の方々、また、お世話をして頂いたスタッフの方々お疲れ様でした。





